

a 学校教育目標	自律の精神の確立と主体的に学ぶ生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 「社会のために役立つ志を抱く生徒の育成」 【ビジョン】(自校の将来像) 「生徒が、安全で安心して有意義に過ごせて、社会人としての資質・能力を身に付けられる学校」(めざす学校像) ・安全で安心して有意義に過ごせる学校 ・笑顔忘れず、明るく温かく人に接し、「ありがとう」があふれる学校 ・夢を志に高める学校 ・自信を持ち光り輝いて行動し、活力のある学校
----------	----------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方案	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	7月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方案	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の定着	授業改善による確かな学力の定着	自信を持って自分の思いを出し、他者と交流する中で深める(「主体的な学び」の実践)	○「本郷中スタンダード」(授業モデル)を活用した授業づくり ○1人1研究授業の実施及び相互参観 ○学び合い、ファシリテートを考慮した授業づくりの推進 ○ICT機器の効果的な活用	生徒授業アンケート「考えたことなどを書いたり表現したりする時間が多く取り入れられている」の肯定的評価の割合	90%	87%	97%	B	・昨年度より達成値が下回った。(R4:92%→R5:87%) ・1年生の達成値に課題がある。(1年:79%, 2年:93%, 3年92%)	・引き続き、組織的な研究体制の中で、各教科統一した取組を推進する。 ・今後の1人1授業研究の協議の際に観点として位置づけ、協議結果も全職員に周知する。 ・カリキュラムマネジメントの観点から、教育研究と生徒指導(集団づくり)がリンクして取り組めるよう各種委員会が連携して取組を推進する。	4	0	0	・前年度より下がっているが、年を増すごとに達成すると思われる。 ・小学校から中1に学びをつなぐことが、大きな課題だと分かりました。自信をもって中学校に行けるよう小学校の指導を行っていきます。
			基礎・基本を定着させる学習習慣の確立	○「本GOノート」の効果的活用と、統一した組織的な取組 ○家庭での学習習慣を確立するための目標学習時間(最低90分以上)の達成	1月の実力テストで、各学年各教科の平均点が50点を上回る教科数の割合	80%	-	-	-		・昨年度より達成値が下回った。(R4:86%→R5:83%) ・1年生の達成値に課題がある。(1年:72%, 2年:89%, 3年91%)	4	0	0
		生徒生活アンケート「家庭学習時間の目標学習時間を達成した」割合	80%	61%	76%	C	・昨年度より達成値が下回った。(R4:67%→R5:61%) ・学年が上がるごとに割合は高くなっている。(1年53%・2年57%・3年73%)	3	0		1	・結果と課題の分析で、学年ごとのパーセンテージが出ているので、理解しやすくして良い。1年生に課題があるようなので、数値を上げるよう努力してもらいたい。そのためには、教員間の意識統一が必要と思うので、しっかり協議等をして取り組んでほしい。 ・結果と課題の分析に当たって、達成値が下がった要因の分析を踏まえた改善方案になっているのだと思いますが、要因の掘り下げが必要だと思います。		
豊かな心の育成	積極的な生徒指導の推進	生徒の自主自律的な活動の推進	○生徒会活動の活性化による自治的風土の醸成 ○ボランティア活動の推進 ○集団づくりの推進	生徒生活アンケート「地域や社会をよくするために何をすべきか考えている」割合	80%	68%	85%	B	・昨年度より達成値が下回った。(R4:73%→R5:68%)	・本郷中学校区のクリーン活動や吹奏楽部による演奏など、学校内での活動に留まらず、学校外(中学校区内)での活動を増やしていく。 ・2年生ではゲストティーチャーに学ぶ会という仕事のやりがいなどを話してもらった機会を設け、働くことの意義などを学ぶ。 ・生徒会活動として、生徒執行部を中心に生徒の挨拶レベルを上げていきたい。	4	0	0	・生徒会活動やボランティア活動を通して、自己有用感を感じることができていると思います。 ・あいさつは、幼保小中で取り組む必要を感じます。 ・登下校時以外で、スマホを見ながら自転車に乗る姿を時々見かけることがあります。交通指導員や安全協会等と連携を図り、指導していくようにしなければならないと思います。 ・生徒主体の取組になるよう生徒自身に考えさせせる場を増やしておられるのだと思います。ぜひ、その姿を地域・各小学校へも知らせていただくと小学生の憧れとなり嬉しいですね。 ・昨年度より達成値が下回ったのは、1年生全体の落ち着いた無さが原因しているのかなとは思いますが、生徒主体の活動を取り入れたらと思います。
		「生活三訓(あいさつをする・時間を守る・身だしなみを整える)」の徹底	○地域や保護者、来校者にレベル3以上(自分から会釈して)のあいさつ ○5分前行動、集会への無言入退場。 ○身辺整理(教室環境の改善)	生徒生活アンケート「地域や保護者や来校者へレベル3以上(自分から会釈して)のあいさつができる」生徒の割合	90%	88%	98%	B	・昨年度より達成値が下回った。(R4:93%→R5:88%)		4	0	0	・体力は、急につくものではありません。体を動かす体験や体力を高めたという動機づけの工夫が必要です。 ・体力向上に向けた改善方案を具体的に必要があると思います。 ・運動部活動との関連もあると思うので、連携もするとよいのではと思う。 ・「弁当の日」の取組は素晴らしいと思いますが、評価項目・指標との関わりがどれくらいあるのでしょうか。
健やかな身体	自らの健康を自ら管理できる生徒の育成	自ら積極的に体づくりに励む	○食への感謝の気持ちの育成。(「弁当の日」の取組) ○基礎トレーニングの工夫等、体力向上の取組	体力・運動能力テストで全国平均を上回る種目の割合	80%	30%	38%	D	・昨年度より達成値が大きく下回った。特に、2学年女子は全国平均を上回る種目が0%。	3	1	0	・授業でICTを活用されたり、ワークシートを使っておられたりする様子を拝見し、生徒のための準備を頑張っておられると思います。先生方も健康に留意してください。 ・部活などもあり、対応は難しいとは思いますが、定期テスト採点業務などの成績処理週間の設定はよいアイデアだと思います。 ・徐々に意識は向上していると思うので、引き続き取り組んでください。 ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、学校行事が活発になり、生徒の生き生きとした表情がみられる一方で、教職員の負担が増している状況があると思います。すぐに解決することは難しいと思いますが、できることからコツコツと取り組んでいきたいと思います。	
働き方改革の推進	ワーク・ライフバランスの確保	長時間勤務の縮減	・上限の目安時間を超えない時間管理の徹底(月45h) ・働く者の意識変革・醸成(ワークライフバランス) ・定時退校日の厳守	時間外在校時間 月45時間以内の職員の割合	90%	48%	53%	D	・昨年度(27.5%)に比べると、大幅に割合は増加している。月80時間を超える教職員は、6月から0名で継続している。	4	0	0	・19時を過ぎた業務とならないように、時間を意識した業務ができる職場をめざす。 ・定期試験の採点業務や成績処理の時間を、勤務時間内で保障するように日程を工夫する。	

【j:自己評価 評価】  
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80  
【l:学校関係者評価 評価】  
イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。 D:(できていない)<60